

3. 特色のある養成研修

各自治体で行っている特別支援教育コーディネーター養成研修からその特徴を読み取り、いくつかのタイプに整理し、事例として示した。

- 《事例 1》 小・中学校コーディネーター養成講座とコーディネーターのリーダー養成講座を組み合わせ実施
- 《事例 2》 小・中学校コーディネーター養成講座とコーディネーターのリーダー養成講座を組み合わせ実施
- 《事例 3》 小・中学校コーディネーター養成講座として、特殊学級・通級指導担当を対象に実施
- 《事例 4》 小・中学校コーディネーター養成講座を他の研修講座と組み合わせ実施
- 《事例 5》 小・中学校コーディネーター養成講座として、地域の大学と連携して実施
- 《事例 6》 盲・聾・養護学校のコーディネーターをコーディネーターの指導者として実施、実地研修を重視して実施
- 《事例 7》 小・中学校コーディネーター養成講座として内部講師で実施
- 《事例 8》 盲・聾・養護学校のコーディネーター研修を基礎研修と専門研修に分けて実施
- 《事例 9》 インターネット講義配信を活用して実施
- 《事例 10》 小・中学校コーディネーター養成講座として指定地域ごとに実施
- 《事例 11》 小・中学校及び盲・聾・養護学校のコーディネーターの指導者の養成
- 《事例 12》 小・中学校及び盲・聾・養護学校のコーディネーターの研修を併せて実施

＜＜ 講義構成の記号 ＞＞

各養成研修事例に記述した講義構成の各講義の記号は次のように類別し示している。

| 記号 | 内 容 |
|-----|-----------------------------|
| I | 特別支援教育に関する概論 |
| II | 指導・支援に関する事項 |
| III | コーディネーター機能・コーディネーション等に関する事項 |

《事例 1》

小・中学校コーディネーター養成講座とコーディネーターのリーダー養成講座を組み合わせる実施

| | | | | |
|----------------|------------------------|---|-------------------------------------|------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | ～ 500 校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | 51 ～ 100 校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | 小・中学校のコーディネーター養成(モデル地域) | 約 110 人 | |
| | | 特殊学級担当 内：教頭・教務 訳：一般教員 ：その他 | 約 30 人 約 25 人 約 50 人 約 5 人 | |
| 講座(2) | 特別支援教育コーディネーターリーダー養成研修 | 盲・聾・養護学校のコーディネーター養成 小・中学校のコーディネーターのリーダー養成 (特殊学級・通級指導担当) | 約 40 人 約 10 人 | |

<講座名(1)> 小・中学校の特別支援教育コーディネーター養成研修

| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
|-------------|----------------------------|----------|-----------------------------|----------|----------|
| I | 特別支援教育概論 | 講義 | 特別支援教育の考え方 特別支援教育の現状と課題 | 指導主事 | 3 |
| II | 校内における支援体制の構築と チームによる支援 | 講義 演習 | 校内支援教育体制の構築 個別指導計画の作成 | 中学校教諭 | 6 |
| II | 特別な教育的ニーズのある子ども の教育実践 | 講義 演習 | 特別支援教育に関する一般的な知識 LDの疑似体験 | 指導主事 | 1.5 |
| II | 特別な教育的ニーズのある子ども の教育実践 | 講義 演習 | 特別支援教育に関する一般的な知識 わかる授業作り | 研究機関研究職員 | 6 |
| III | コーディネーターの実際 | 講義 | 校内委員会の構築と運営上の課題 | 小学校教諭 | 1.5 |
| III | 事例研究 | 協議 | グループ毎の事例研究 | | 3 |
| III | コーディネーションの計画と評価 | | コーディネーションの計画と評価 | 指導主事 | 1.5 |
| 延べ日数 | | | | | 7 |

<講座名(2)> 特別支援教育コーディネーターのリーダー養成研修

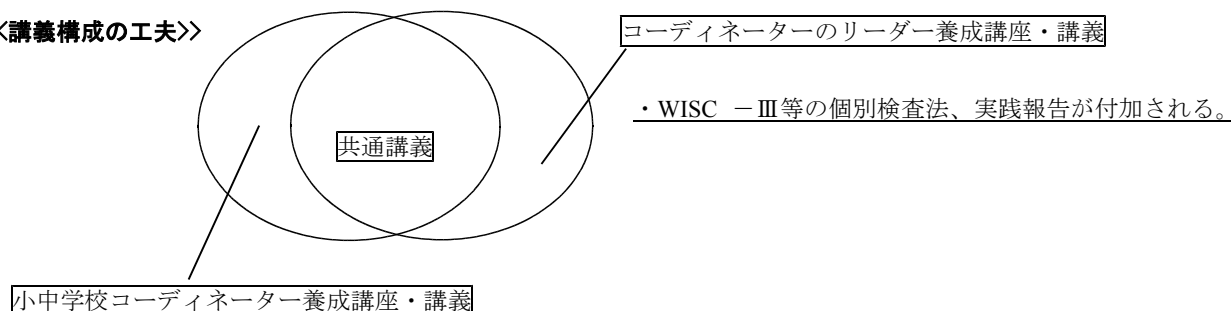
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
|-------------|----------------------------|----------|-----------------------------|----------|-----------|
| I | 特別支援教育概論 | 講義 | 特別支援教育の考え方 特別支援教育の現状と課題 | 指導主事 | 3 |
| II | 校内における支援体制の構築と チームによる支援 | 講義 演習 | 校内支援教育体制の構築 個別指導計画の作成 | 中学校教諭 | 6 |
| II | 特別な教育的ニーズのある子ども の教育実践 | 講義 演習 | 特別支援教育に関する一般的な知識 LDの疑似体験 | 指導主事 | 1.5 |
| II | 特別な教育的ニーズのある子ども の教育実践 | 講義 演習 | 特別支援教育に関する一般的な知識 わかる授業作り | 研究機関研究職員 | 6 |
| III | コーディネーターの実際 | 講義 | 校内委員会の構築と運営上の課題 | 小学校教諭 | 1.5 |
| II | 個別知能検査の分析 | 演習 | WISC-IIIの分析 | 大学教官 | 5 |
| II | 個別知能検査の分析 | 演習 | K-ABCの分析 | 臨床心理士 | 3 |
| II | 特別な教育的ニーズのある子ども の教育実践 | 報告 協議 | 教育実践報告と協議 | | |
| III | 事例研究 | 協議 | グループ毎の事例研究 | | 6 |
| III | コーディネーションの計画と評価 | | コーディネーションの計画と評価 | 指導主事 | 1.5 |
| 延べ日数 | | | | | 10 |

<備考> は、(1)(2)講座共通講義

【研修講座の構成と各講座の特徴】

・指定地域内の小中学校コーディネーター養成講座とコーディネーターのリーダー養成講座を組み合わせる実施

<<講義構成の工夫>>



《事例 2》

小・中学校コーディネーター養成講座とコーディネーターのリーダー養成講座を組み合わせ実施

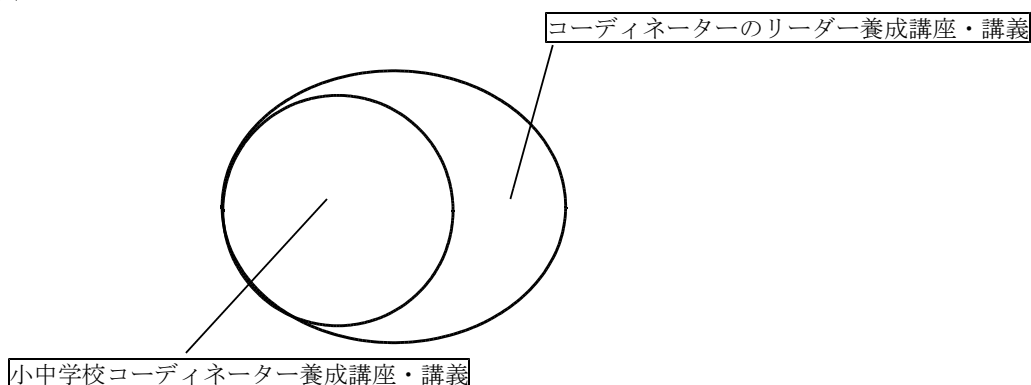
| | | | | |
|----------------|---------------------------------|---|--------|---------------------------------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | 1001～1500校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | ～50校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援コーディネーター養成研修(1) | 盲・聾・養護学校のコーディネーター養成 | | 約70人 |
| | | 小・中学校のコーディネーター養成 内：特殊学級担当 訳：教頭・教務・一般教員 その他 | | 約360人 約110人 約200人 約50人 |
| 講座(2) | 特別支援コーディネーター養成研修(2) (リーダー研修) | 小・中学校のコーディネーターのリーダー養成 | | 約20人 |
| | | 内：特殊学級担当 訳：教頭・教務・一般教員 | | 約10人 約10人 |

| ＜講座名(1)＞ 小・中学校の特別支援教育コーディネーター養成研修 | | | | | |
|-----------------------------------|--------------------------|----------|--|----------|----|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
| Ⅱ | LD、ADHD 高機能自閉症等の理解と支援 | 講義 | LD、ADHD 高機能自閉症等の理解と支援の在り方 | 研究機関研究職員 | 3 |
| Ⅱ | 校内における支援体制の構築とチームによる支援 | 講義 | 特別支援教育体制と校内委員会の役割 | 大学教官 | 3 |
| Ⅱ | 特別な教育的ニーズのある子どもの実態把握と諸検査 | 講義 演習 | LD等の判断と教育支援 WISC-Ⅲ等の検査法の理解 | 研究機関研究職員 | 3 |
| Ⅲ | コーディネーターの役割と実際 | 講義 | 特別支援教育コーディネーターの役割と個別の教育支援計画について | 研究機関研究職員 | 3 |
| 延べ日数 | | | | | 2 |
| ＜講座名(2)＞ 特別支援教育コーディネーターのリーダー養成研修 | | | | | |
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
| Ⅱ | 特別支援教育体制の整備 | 講義 | 校内における特別支援教育体制の整備 LD、ADHD、高機能自閉症の児童生徒への支援 | 研究所研究職員 | 3 |
| Ⅱ | 特別支援教育体制の実際 | 研究 協議 | 受講者による各学校での実践報告 研究協議 | 研究所研究職員 | 3 |
| 延べ日数 | | | | | 1 |
| ＜備考＞ は、講座共通講義 リーダー養成は、2つの講義が加わる。 | | | | | |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・ 指定地域内の小中学校コーディネーター養成講座とコーディネーターのリーダー養成講座を組み合わせ実施
- ・ 小中学校コーディネーター養成講座・講義に2講義を加えて、コーディネーターのリーダー養成講座とした。

＜講義構成の工夫＞



《事例3》

小・中学校コーディネーター養成講座として、特殊学級・通級指導担当を対象に実施

| | | | | |
|----------------|--------------------|---------|--|---|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | ～ 500 校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | ～ 50 校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | 小・中学校のコーディネーター養成(モデル地域) ：特殊学級・通級指導担当 内：教頭・教務 訳：一般教員 ：その他 | 約 30 人 約 30 人 約 0 人 約 0 人 約 0 人 |

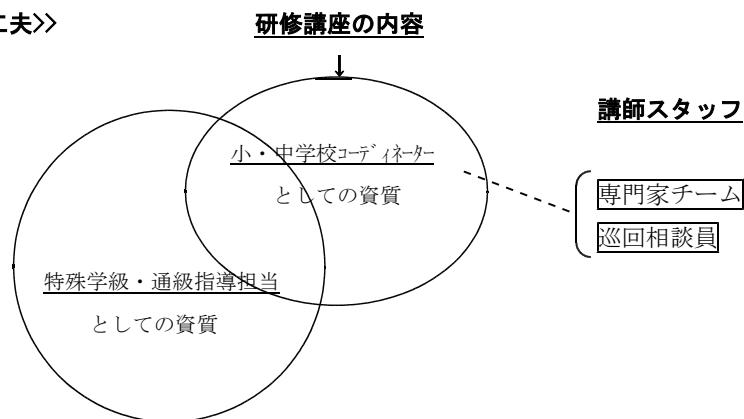
| ＜講座名(1)＞ 特別支援教育コーディネーター養成研修(小・中学校のコーディネーター養成<モデル地域>) | | | | | |
|--|----------------------|----------|----------------------------------|---------|----------|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
| I | 特別支援教育概論 | 講義 | 今後の特別支援教育の考え方 特別支援教育推進上の配慮事項 | 指導主事 | 3 |
| I | 特別支援教育コーディネーター概論 | 講義 | コーディネートの目的、コーディネーターの役割、校内支援体制作り | 指導主事 | 3 |
| I | 校内委員会の充実について | 講義 | 校内委員会の組織的な運営について | 指導主事 | 1.5 |
| II | 校内支援体制の整備について | 実地 研修 | 校内支援体制の具体的方策について | 巡回相談員 | 3 |
| II | LD、ADHD 高機能自閉症等の指導 | 講義 | 医学的視点から見た LD、ADHD 高機能自閉症 | 大学医学部教官 | 1.5 |
| II | LD、ADHD 高機能自閉症等指導 | 講義 | LD、ADHD、高機能自閉症の理解と支援 | 専門家チーム | 3 |
| I II | 個別の教育支援計画の作成について | 演習 | 個別の教育支援計画の作成、実施、評価 個人情報管理の在り方 | 専門家チーム | 6 |
| II | カウンセリングマインド | 講義 | 児童生徒、保護者、学級担任との面接 | 指導主事 | 1.5 |
| III | コーディネーションの実際 | 事例 報告 | 指定校における実践事例の報告と協議 | 小学校教諭 | 1.5 |
| II III | 各学校における特別支援教育推進体制の報告 | 実地 研修 | 各小・中学校における事例の報告と協議 | | 6 |
| 延べ日数 | | | | | 3 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・指定地域内の小・中学校コーディネーター養成講座として、特殊学級・通級指導担当を対象に、内容を精選し実施。
- ・コーディネーターを特殊学級担任、通級指導担当に位置付け、研修の対象としている。したがって、研修内容が精選されている。
- ・講師として、専門家チームスタッフ、巡回相談員を起用している。

＜＜講師スタッフの工夫＞＞

＜＜コーディネーター指名の工夫＞＞



《事例4》

小・中学校コーディネーター養成講座を他の研修講座と組み合わせて実施

| | | | | |
|----------------|--------------------|-----------|---|------------------------------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | 501～1000校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | ～50校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | 小・中学校のコーディネーター養成 ：特殊学級・通級指導担当 内：教頭・教務 訳：一般教員 ：その他 | 約10人 約人 約人 約人 約人 |

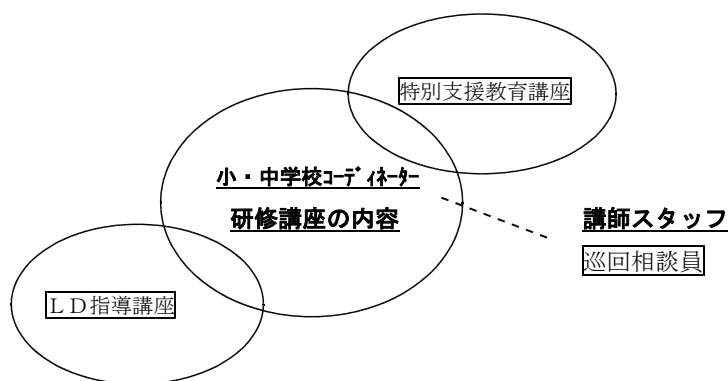
| ＜講座名(1)＞ 小・中学校特別支援教育コーディネーター養成研修 | | | | | | |
|----------------------------------|-------------------------|----------|---|-------------|------|---|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 | |
| I | 特別支援教育概論 | 講義 | 特別支援教育について 特別支援教育推進モデル事業について | 指導主事 | 3 | |
| I | 特別支援教育と校内支援体制の整備と指導について | 講義 | 特殊教育から特別支援教育へ 校内支援体制の実際（コーディネーターの役割） 個別の指導計画の立案 | 小学校教諭 | 2 | |
| II | 学習障害の理解と指導 | 講義 | 学習障害の理解と指導 | 大学教官 | 2 | |
| II | LD、ADHD、高機能自閉症児等への支援 | 講義 | LD、ADHD、高機能自閉症児等への支援 （研究発表会参加） | | 6 | |
| II | LD、ADHD、高機能自閉症児の指導法 | 講義 | 対象児童生徒の指導法 | 巡回相談員 | 2 | |
| II | 個別発達検査の見方 | 講義 演習 | 個別発達検査の見方 | 小学校教諭 | 2 | |
| II | 検査結果についての事例研究 | 演習 | 検査結果についての事例研究 | 小学校教諭 | 2 | |
| ＜備考＞ | | | | は、他の研修講座の受講 | 延べ日数 | 3 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・ 指定地域内の小・中学校コーディネーター養成講座として、他の研修講座等と関連付けて実施する。
- ・ 派遣研修で研修をした教諭と巡回相談員を講師として起用する。

＜講師スタッフの工夫＞

＜他の研修講座と組み合わせる＞



《事例5》

小・中学校コーディネーター養成講座として、地域の大学と連携して実施

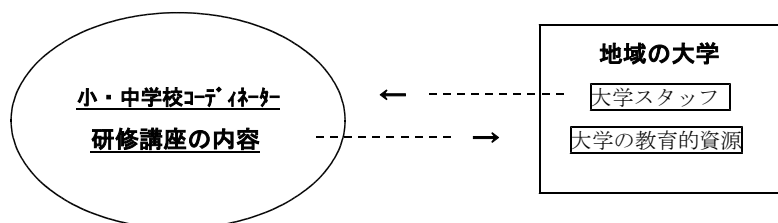
| | | | | |
|----------------|--------------------|-------------------------|--------|------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | 501～1000校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | ～50校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | 小・中学校のコーディネーター養成(モデル地域) | | 約50人 |
| | | 特殊学級・通級指導担当 | | 約30人 |
| | | 内 教頭・教務 | | 約10人 |
| | | 訳 一般教員 | | 約10人 |
| | | その他 | | 約 人 |

| ＜講座名(1)＞ 小・中学校特別支援教育コーディネーター養成研修 | | | | | | |
|----------------------------------|-------------------|----------|--|--------------|------|---|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 | |
| I | 特別支援教育概論 | 講義 | 特別支援教育の概要 | 指導主事 | 1 | |
| II | LD、ADHD の理解と支援 | 講義 | LD、ADHD の理解と支援 | 地域の大学 | 2 | |
| II | LD、ADHD の理解と支援 | 講義 | 高機能自閉症の理解と支援 | 地域の大学 | 2 | |
| II | 個別の知能検査 | 講義 | 個別の知能検査法 | 地域の大学 | 2 | |
| II | 専門機関での支援の実際 | 実地 研修 | 大学教育学部に設置された指導の場での 実地研修 | 地域の大学 | 2 | |
| III | 関連機関との連携の実際 | 講義 | 関連機関の活動内容と小・中学校との連 携の実際 | 福祉機関職員 | 2 | |
| III | 特別支援教育コーディネーターの実際 | 報告 演習 | 小・中学校のコーディネーターの役割、校内支援 体制作りについての事例報告と演習 | 小学校教諭 | 4 | |
| ＜備考＞ | | | | は、大学との連携した講義 | 延べ日数 | 3 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・指定地域内の小・中学校コーディネーター養成講座として実施
- ・地域の大学の教育学部・医学部のスタッフを講師として起用するほか、大学に設置されているLD等の指導の場と連携して、実地研修を企画した。

＜＜地域の大学と連携＞＞



《事例6》

盲・聾・養護学校のコーディネーターをコーディネーターの指導者として実地研修を重視して実施

| | | | | |
|----------------|--------------------|------------|---------------------|-------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | 1001～1500校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | 251～300校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | 盲・聾・養護学校のコーディネーター養成 | 約 30人 |
| | | | 小・中学校のコーディネーター養成 | 約 人 |
| | | | 内：特殊学級担当 | 約 人 |
| | | | 訳：教頭・教務・一般教員 | 約 人 |
| | | | その他 | 約 人 |

| ＜講座名＞ 盲・聾・養護学校のコーディネーター養成研修 | | | | | | |
|-----------------------------|---------------------------|--------|---------------------------------|--------------------------|------|---|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 | |
| I | 特別支援教育コーディネーター役割 | 講義 | 盲・聾・養護学校の地域支援コーディネーターの役割について | 指導主事 | 3 | |
| II | LD、ADHD 高機能自閉症の理解と支援 | 研究協議 | LD、ADHD、高機能自閉症児等へ理解と支援について | 大学教官 指導主事 | 3 | |
| II | LD、ADHD 高機能自閉症の相談支援の実際(1) | 実地研修 | 小学校の通常の学級・特殊学級の参観 相談・支援実習 | 指導主事 | 6 | |
| II | LD、ADHD 高機能自閉症の相談支援の実際(2) | 実地研修 | 小学校の通常の学級・特殊学級の参観 相談・支援実習 | 指導主事 | 6 | |
| II | アセスメントの実際 | 講義協議 | 子どもの理解のためのアセスメント法 ー行動観察・諸検査ー | 大学教官 指導主事 | 3 | |
| III | 関連機関との連携 | 講義協議 | 医療・労働・福祉との連携 協議のまとめ | 医療・労働・福祉 関係職員 指導主事 | 6 | |
| ＜備考＞ | | は、実地研修 | | | 延べ日数 | 6 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

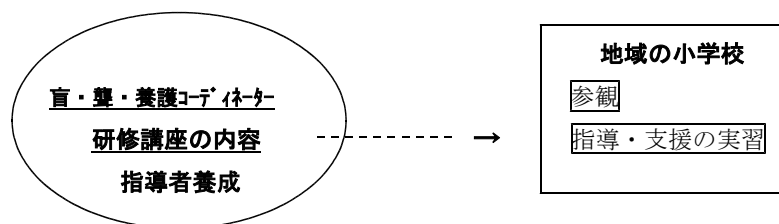
- 盲・聾・養護学校のコーディネーターを地域のコーディネーターの指導者として養成

＜＜実地研修を重視＞＞

- 地域の小学校で指導の実際を研修

＜＜備考＞＞

- この研修講座の他に、小・中学校のコーディネーター養成の研修講座を県及び市町村で実施した。



《事例7》

小・中学校コーディネーター養成講座として内部講師で実施

| | | | | |
|----------------|--|-------------------|--|----------------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 指定地域内小・中学校数 | 501～1000校 ～50校 | 養成研修講座 | |
| | | | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育推進モデル事業に係る 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | 盲・聾・養護学校のコーディネーター養成 | 約 5人 |
| | | | 小・中学校のコーディネーター養成(モデル地域) 内：特殊学級・通級指導担当 | 約 25人 約 10人 |
| | | | 訳：教頭・教務・一般教員・その他 | 約 15人 |

| ＜講座名(1)＞ 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | | | | |
|-----------------------------|---------------------------|------|------------------------------------|----------------|----------|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
| I | 特別支援教育推進モデル事業について | 講義 | 特別支援教育推進モデル事業の説明 | 指導主事 | 1 |
| I | 特別支援教育コーディネーター概論 | 講義 | 特別支援コーディネーターの役割と配慮事項 | 指導主事 | 2 |
| II | 特別な教育的ニーズのある子どもの理解と対応 | 講義 | LD、ADHD等の一般的知識及び教育的対応の在り方 | 指導主事 | 2 |
| II | 特別な教育的ニーズのある子どもの支援における諸課題 | 研究協議 | 特別な教育的ニーズのある子どもの支援における諸課題 | 指導主事 | 2 |
| II | 校内支援体制の構築と支援の実際 | 事例報告 | 校内支援体制の構築と支援の実際についての事例報告 | 小学校教諭 中学校教諭 | 2 |
| II | 校内支援体制の構築と学校に行ける具体的支援の展開 | 講義 | 校内支援体制の構築と学校における具体的支援について | 指導主事 | 2 |
| II | 支援事例の検討による校内支援体制の見直し | 協議 | 各学校からの支援事例の検討による校内支援体制の検討 | 指導主事 | 2 |
| II | 学校内における特別支援教育体制推進の在り方 | 事例研究 | 学校における特別支援教育体制の構築の事例研究 | 小学校教諭 中学校教諭 | 2 |
| II | 支援事例の検討による校内支援体制の改善 | 協議 | 各学校からの支援事例の検討 | 指導主事 | 2 |
| III | コーディネーションの計画と評価 | 演習 | コーディネーションによる全体的な取り組みの評価とその活かし方について | 指導主事 | 2 |
| 延べ日数 | | | | | 3 |

[研修講座の構成と各講座の特徴]

- 指定地域内の小・中学校コーディネーター養成講座として実施し、教育委員会指導主事と小・中学校の教諭を講師として研修講座を実施した。

＜＜講師の工夫＞＞ 教育委員会指導主事と小・中学校の教諭を講師とした研修講座を実施

《事例8》

盲・聾・養護学校のコーディネーター研修を基礎研修と専門研修に分けて実施

| | | | | |
|----------------|-----------------------|-------------------|---------------------|------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 指定地域内小・中学校数 | ～ 500 校 ～ 50 校 | 養成研修講座 | |
| | | | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 基礎研修 | | 盲・聾・養護学校のコーディネーター養成 | 約 人 |
| 講座(2) | 専門研修 | | 盲・聾・養護学校のコーディネーター養成 | 約 人 |
| 講座(3) | 特別支援教員研修 | | 小・中学校のコーディネーター養成 | 約 人 |

| ＜講座名(1)＞ 基礎研修 (盲・聾・養護学校の指導者養成講座) | | | | | | |
|----------------------------------|----------------|----------|-----------------------------|----------|------|---|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 | |
| I | 地域での支援の在り方 | 講義 協議 | コーディネーターに期待されるもの 地域の教育課題 | 大学教官 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | 教育相談の在り方 | 療育機関職員 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | 幼児への対応 | 大学教官 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | 校内支援体制の整備 | 研究機関研究職員 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 協議 | LD、ADHD 等への支援 | 指導主事 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | 発達検査の理論と実習 | 指導主事 | 6 | |
| II | 県における特別支援教育の実際 | 協議 | 特別支援教育研究協議会 | 大学教官 | 6 | |
| II | 地域での特別支援教育の実際 | | 特別支援教育教員研修協議会参加 | | 6 | |
| III | | | | | | |
| ＜備考＞ | | | | は、他講座の受講 | 延べ日数 | 8 |

| ＜講座名(2)＞ 専門研修 (盲・聾・養護学校の指導者養成講座) | | | | | | |
|----------------------------------|-------------|----------|---|--------|------|--|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 | |
| II | 事例研究・研究協議 | 講義 協議 | 地域における相談活動 小中学校における巡回指導 地域支援ネットワーク カウンセリング実習事例報告 | 大学教官 | 4日 | |
| II | 教育相談会体験実習 | 実習 | 相談実習 ガイダンス実習 | 小・中学校等 | 2日 | |
| II | コンサルテーション実習 | 実習 | 指導の実際 | 小・中学校等 | | |
| II | カウンセリング実習 | 実習 | 教育相談実習 | 小・中学校等 | 6日 | |
| ＜備考＞ | | | | | 延べ日数 | |

| ＜講座名(3)＞ 小・中学校のコーディネーター養成研修 | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|----|------------------|----------|------|---|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 | |
| I | 特別支援教育コーディネーター概論 | 講義 | コーディネーターに期待されるもの | 大学教官 | 3 | |
| II | 事例研究協議 | 協議 | 個別的な支援教育 | 研究機関研究職員 | 3 | |
| II | 研究協議 | 講義 | 事例研究 | 大学教官 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | 校内支援体制作り | 研究機関研究職員 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | LD、ADHD 等への支援の実際 | 指導主事 | 3 | |
| II | 県の特別支援教育の実際 | 協議 | 特別支援教育研究協議会 | 大学教官 | 6 | |
| I | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | 学校経営 | 特殊教育専門官 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | 教育相談の在り方 | 療育機関職員 | 3 | |
| II | 特殊教育研修講座を受講 | 講義 | 発達検査の理論と実習 | 指導主事 | 6 | |
| ＜備考＞ | | | | は、他講座の受講 | 延べ日数 | 9 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・従来から実施していた指導者養成講座を盲・聾・養護学校のコーディネーター養成として位置付けた。
- ・他講座の受講を通して構成する研修講座を実施
- ・LD、ADHD、高機能自閉症、コンサルテーション、カウンセリング研修講座の受講をコーディネーター養成研修に位置付けた。

《事例9》

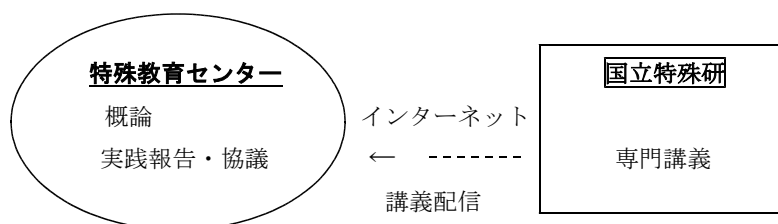
インターネット講義配信活用して実施

| | | | | |
|----------------|-----------------------|--------------------|--|-------------------------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 指定地域内小・中学校数 | 1001～1500校 ～50校 | 養成研修講座 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | 小・中学校のコーディネーター養成(モデル地域) 内;特殊学級・通級指導担当 訳;教頭・教務・一般教員・その他 | 約 50人 約 35人 約 15人 |

| ＜講座名(1)＞ 特別支援教育コーディネーター養成研修(小・中学校のコーディネーター養成<モデル地域>) | | | | | |
|--|----------------|------------------|-----------------|---------|------|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
| I | 特別支援教育概説 | 講義 | 特別支援教育モデル事業について | 指導主事 | 1 |
| II | ADHDの理解と支援 | 講義 | ADHDの理解と支援 | 特殊研講義配信 | 1 |
| II | 高機能自閉症の理解と支援 | 講義 | 高機能自閉症の理解と支援 | 指導主事 | 2 |
| II | LD、ADHD等の理解と支援 | 講義 | アセスメントの実際 | 指導主事 | 1 |
| II | 個別の知能検査 | 講義 | 実態把握のためのアセスメント | 特殊研講義配信 | 1 |
| II | 実践交流及び協議 | 講義 | 実践交流及び協議 | 指導主事 | 3 |
| ＜備考＞ | | は、インターネットを利用した講義 | | | 延べ日数 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・国立特殊教育総合研究所が配信する講義を研修講座に位置付けて構成した。



《事例10》

小・中学校コーディネーター養成講座として指定地域ごとに実施

| | | | | |
|----------------|--------------------|------------|--|-------------------------------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | 2000～2500校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | 300～350校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | 小・中学校のコーディネーター養成(モデル地域) ：特殊学級・通級指導担当 内：教頭・教務 訳：一般教員 ：その他 | 約350人 約人 約人 約人 約人 |

| ＜講座名(1)＞ 小・中学校特別支援教育コーディネーター養成研修＜モデル地域＞ | | | | | |
|---|-------------------------------|----------|--|------|----------|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
| I | 特別支援教育コーディネーター概論 | 講義 | 特殊教育から特別支援教育へ 小中学校における特別支援教育 個別の指導計画 特別支援教育コーディネーターに求められる資質と役割 特別支援教育推進体制モデル事業の概要と今後の展開 | 指導主事 | 1.5 |
| II | 特別な教育的ニーズのある児童生徒の教育の実践に関すること | 講義 | LDの定義、特徴、理解の仕方、教育的対応、ADHDの定義、特徴、理解の仕方、教育的対応、共通の指導上の配慮、障害毎の具体的な指導内容、方法 疑似体験 | 指導主事 | 1 |
| III | 関係機関とのネットワークや支援体制の構築とチームによる支援 | 講義 | 特別支援教育の理解と校内体制作り ネットワーク作りの在り方 コンサルテーションの在り方 保護者・PTAとの連携 専門性の向上と研修 個別の指導計画の作成と活用 指導体制の工夫・配慮 | 指導主事 | 1 |
| III | 校内における特別支援教育体制の構築 | 講義 協議 | 先進事例 校内委員会での支援 今後の取り組みに対する協議 | 指導主事 | 1.5 |
| 延べ日数 | | | | | 1 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・指定地域内の小・中学校コーディネーター養成講座として、自治体内の各地域で実施した。

《事例 1 1》

小・中学校及び盲・聾・養護学校のコーディネーターの指導者の養成

| | | | | |
|----------------|--------------------|---------|---|--------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | ～ 500 校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | 50 校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | 盲・聾・養護学校のコーディネーターのリーダー 小・中学校のコーディネーターのリーダー | 約 20 人 |

| ＜講座名(1)＞ 特別支援教育コーディネーター養成研修（コーディネーターのリーダー養成） | | | | | |
|--|----------------|----------|---|----------------------------|--------|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
| I | LD、ADHD の理解と対応 | 講義 | 特別支援教育の担当専門研修の目的 | 大学教官 | 3 |
| II | 発達障害概論 | 講義 | 発達障害論の概念 LD、ADHD について | 療育センター職員 | 6 |
| II | アセスメント概論 | 講義 演習 | アセスメントについての概説 心理アセスメントの概説 WISC-III、K-ABC の各検査 | 研究機関研究職員 | 3 |
| II | 検査法 WISC-III | 講義 演習 | 知能検査の意義 WISC-III の特徴、実施の手順 検査実習 | 指導主事 | 3 |
| II | 検査法 K-ABC | 講義 演習 | K-ABC の基本理念 K-ABC の特徴、実施の手順 検査実習 | 大学教官 | 6 |
| II | 読み書き障害の指導 | 講義 演習 | 読み書き障害の概説 通常の学級の中での配慮事項 | LD 関連機関職員 | 3 |
| II | 算数障害の指導 | 講義 | 算数障害の概説 算数障害の子どもへの指導法 | 大学教官 | 3 |
| II | 個別の指導計画作成 | 講義 演習 | 個別の指導計画について 事例演習 | 研究機関研究職員 | 3 |
| II | ソーシャルスキルの指導 | 講義 演習 | ソーシャルスキルの指導 教師のためのカウンセリング | 大学教官 | 3 |
| II | 学校における配慮事項 | 演習 | 保護者との信頼関係作り LD の指導のポイント（学習、行動、心理面） | 大学教官 | 3 |
| II | 学校保護者への支援 | 講義 | コーディネーターの役割 | 大学教官 | 3 |
| II | 進路指導と自立支援 | 研究 協議 | 特性と関連する就労上の課題 労働行政と就労支援 | 大学教官 | 3 |
| II | 事例研究 | 講義 演習 | 事例研究法概論 事例研究演習 | 大学教官 | 3 |
| II | 事例検討会 | 演習 | 事例検討会 | 指導主事 | |
| III | 研修成果報告会 | 発表 | 研修成果報告 | 医療・労働・福祉 関係機関職員 指導主事 | 6 |
| ＜備考＞ | | | | | 延べ日数 6 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・コーディネーターの指導者となる人材の養成を充実したカリキュラムで実施した。

《事例 1 2》

小・中学校及び盲・聾・養護学校のコーディネーターの研修を併せて実施

| | | | | |
|----------------|--------------------|------------|-------------------------------------|----------------|
| 自治体の プロフィール | 小・中学校数 | 1000～1500校 | 養成研修講座 | |
| | 指定地域内小・中学校数 | ～50校 | 受講対象 | 受講者数 |
| 講座(1) | 特別支援教育コーディネーター養成研修 | | 盲・聾・養護学校のコーディネーター 小・中学校のコーディネーター | 約100人 約400人 |

| ＜講座名(1)＞ 特別支援教育コーディネーター養成研修（コーディネーターのリーダー養成） | | | | | |
|--|------------------------|----------|--|----------|----|
| 記号 | 講義・演習等の題目 | 形態 | 内容 | 講師 | 時間 |
| I II | 特別支援教育体制の整備 | 講義 | 特別支援教育体制と校内委員会の役割 地域における特別支援教育体制の整備 | 大学教官 | 3 |
| II | LD、ADHD、高機能自閉症の理解と支援 | 講義 | LD、ADHD、高機能自閉症の理解と支援の在り方 | 研究機関研究職員 | 3 |
| II | 特別支援教育コーディネーターの役割 | 講義 | 特別支援教育コーディネーターの役割と個別の教育支援計画について | 研究機関研究職員 | 2 |
| II | LD、ADHD、高機能自閉症と教育的支援 | 講義 | LD、ADHD、高機能自閉症の判断 教育心理検査法の理解 | 研究機関研究職員 | 3 |
| II | LD、ADHD、高機能自閉症への校内支援体制 | 研究協議 | 校内における支援体制とLD、ADHD、高機能自閉症への支援 | 研究機関研究職員 | 3 |
| II III | 研究協議 | 報告 協議 | 実践事例の報告と協議 | | |
| ＜備考＞ | | | | 延べ日数 | 3 |

【研修講座の構成と各講座の特徴】

- ・小・中学校のコーディネーター及び盲・聾・養護学校のコーディネーターの研修を併せて実施する。
- ・全県を対象に多人数での研修講座として実施した。